
栗東市の高齢者・介護保険を取り巻く課題

令和8年7月

第9期の実績と課題

第9期計画中に施策・事業を推進した実績と課題について、第9期計画の基本方向に沿って整理します。

基本方向1 高齢者の健康と生きがいの推進

1) 介護予防・健康づくりの推進

介護予防とフレイル予防については、栗東100歳大学や出前トーク、コミュニティセンター等での講座、広報折り込みを活用して普及啓発を図るとともに、地域で実施されるいきいき百歳体操実践団体に住民の選択に応じた支援を行いました。また、健康づくりの推進のため、健康づくりの情報提供、各種健康診査、健康スマホポイント事業等に取り組みしました。

評価のための指標では、要支援の人の社会参加割合は横ばい、一般高齢者は増加しています。特定健康診査受診率は減少しています。市民の社会活動参加を引き続き支援していくとともに、健康づくりにつながる各種健診の受診率向上に向けたさらなる工夫が求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R4実績値	R7実績値	R8目標値
週に1回以上、社会参加している人の割合【ニーズ調査】 (不明・無回答を含む)	要支援：34.1%	要支援：32.4%	要支援：36.5%
	非該当：46.9%	非該当：51.1%	非該当：59.7%
特定健康診査受診率（国民健康保険）	40.0%	36.0%	51.6%

2) 生きがいの推進

高齢者の生きがいを支援するために、はつらつ教養大学、生涯学習講座の開催、生涯学習の講座やサロンへの講師派遣や資料提供を実施しました。また、文化協会や音楽振興会活動、総合型地域スポーツクラブ等の団体への支援を実施するとともに、高齢者同士の交流機会の創出のため、生きがい実践交流会やふれあい健康ウォーキングなどのイベントを実施しました。さらに老人福祉センターにおいて健康相談や、趣味・教養の向上のための講座の企画等を実施し、高齢者の活動の機会を提供しています。

評価のための指標では、生きがいがあると回答した人の割合は、要支援の人と一般高齢者のいずれにおいても増加となっており、目標を達成しています。生きがいの推進は、介護予防の観点からも重要な取組であり、引き続き生涯学習や生涯スポーツ、文化芸術活動の支援を通して、高齢者の生活を豊かにしていく取組が求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
生きがいがあると答えた人の割合【ニーズ調査】 (不明・無回答を含む)	要支援：41.3%	要支援：45.1%	要支援：42.0%
	非該当：58.4%	非該当：61.0%	非該当：61.0%

3) 高齢者の社会参加の促進

高齢者の社会参加を促すため、老人クラブ活動への助成支援、ボランティア活動や社会参加につながるいきいき活動ポイント事業、就労の機会づくり、栗東 100 歳大学卒業生支援、居場所の立ち上げ支援等に取り組んできました。

評価のための活動指標では、高齢者の社会参加は、要支援の人の社会参加割合は横ばい、一般高齢者は増加しています。いきいき活動ボランティア登録者数は目標を達成し、順調に取組が進められています。社会参加は、高齢者同士の交流につながり、さらに孤立や孤独を防ぎつつ、心の豊かさや生きがい、そしてウェルビーイングにもつながります。引き続き、社会参加の機会創出を支援していくことが求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
週に 1 回以上、社会参加している人の割合【ニーズ調査】(不明・無回答を含む) ※再掲	要支援：34.1%	要支援：32.4%	要支援：36.5%
	非該当：46.9%	非該当：51.1%	非該当：59.7%
いきいき活動ボランティア登録者数	391 人	457 人	451 人

■数値目標の検証

基本方向 1 の数値目標は、健康寿命の延伸ですが、男性は令和 4 年の実績値は 80.8 歳、令和 7 年では 81.3 歳に上がり、ほぼ目標値に達しています。一方で女性では令和 4 年の実績値からわずかに下がっています。

女性の健康寿命は既に男性を上回っており、社会参加率や趣味、生きがいを持っている割合も女性の方が高い傾向にあります。男性の社会参加率向上や男女ともに生活習慣の改善を含めた地域全体の健康寿命の延伸に繋がる効果的な取組が求められています。

【基本方向 1 の数値目標】

数値目標	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
健康寿命（平均自立期間）の延伸 【国保データベース（KDB）システム】 ※過去 3 年間の平均値	男性：80.8 歳	男性：81.3 歳	男性：81.4 歳
	女性：84.6 歳	女性：84.5 歳	女性：85.2 歳

基本方向2 互いに助け合うまちづくりの推進

1) 地域のつながりづくり

地域のつながりづくりのために、社会福祉協議会や NPO 法人との連携、元気創造まちづくり助成金の交付、未来へつなぐ市民活動応援事業補助金の交付、各中学校区に C S W（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）の配置、民生委員・児童委員への活動支援、生活困窮者への支援、児童館等での世代間交流、自治会の活動への支援、各コミュニティセンターへの支援、重層的支援体制整備事業への移行準備に取り組んできました。

評価のための指標では、家族や親戚以外に心配事や愚痴を聞いてくれる人がいると回答した人の割合は、前回実績よりも低下しています。これまでの取組を検証し、地域のつながりづくりをより力強く支援していくことが求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
1 人暮らしの人で、家族や親戚以外に心配事や愚痴を聞いてくれる人がいると答えた人の割合 【ニーズ調査】（不明・無回答を含む）	要支援：59.6%	要支援：51.8%	要支援：66.2%
	非該当：71.9%	非該当：58.2%	非該当：82.4%

2) 市民が互いに支え合う地域づくりの推進

市民が互いに支え合う地域づくりを推進するため、新たな活動をしたい人への活動支援、活動の支援を行うための施策検討・実施、地域ささえあい推進員ニュースの発行、地域サロン等の居場所への支援、市民が自身の暮らしに目を向け、持続可能な地域について話し合う場の設置、自治会への活動支援、民生委員児童委員協議会への支援、隣保館デイサービス事業の開催、地域福祉計画の策定・推進等に取り組みました。

評価のための指標では、友人等と会う機会の頻度については前回実績値から横ばい、地域ささえあい推進員等と多様な主体が連携し新たに開発した社会資源については、地域包括ケアシステムの深化のため、引き続き互いに支え合う仕組みづくりを支援していくことが求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
友人・知人と会う頻度が多い人（「月に何度かある」以上）の割合【ニーズ調査】 （不明・無回答を含む）	要支援：50.2%	要支援：49.5%	要支援：56.6%
	非該当：61.5%	非該当：61.0%	非該当：70.3%
地域ささえあい推進員と多様な主体が連携し新たに開発した社会資源	4 件 （※R3～R4 累計） 6 件 （※R3～R5 累計）	7 件 （※R6～R7 累計）	10 件 （※R6～R8 累計）

■数値目標の検証

基本方向2の数値目標は、「住みなれた地域で、近隣との支え合いのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合」となっています。[（調査結果がまとめ次第、記載予定）](#)

【基本方向2の数値目標】

数値目標	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
住みなれた地域で、近隣との支え合いのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合 【市民アンケート調査】	51.8% (※令和3年9月実績)	(令和8年度実施予定)	54.4%

基本方向3 本人らしい暮らしを可能にする包括的支援の充実

1) 地域包括支援センターによる包括ケアの推進

地域包括支援センターの機能強化のため、地域包括支援センター運営協議会の実施、地域包括支援センター長会議の開催、国・県等が主催する地域包括支援センターの業務に関連する各種研修会への参加に取り組んできました。地域包括ケアシステムの充実のために、個別地域ケア会議や圏域地域ケア会議の実施、総合相談支援事業等に取り組んできました。

評価のための指標では、地域包括支援センターの認知度については、前回の実績値から大きく割合が増加しており、目標を大きく達成しています。地域包括ケアシステムの深化のため、引き続き地域包括支援センターの質の確保と体制整備等が求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
地域包括支援センターを知っている人の割合 【ニーズ調査】（不明・無回答を含む）	要支援：66.2% 非該当：36.3%	要支援：76.5% 非該当：47.4%	要支援：67.2% 非該当：37.0%

2) 在宅医療と介護の連携

在宅医療・介護を支援する多機能・多職種間の関係構築のため、連携促進を目的とした研修会や多職種マッチング会を開催しました。また、在宅療養手帳や入退院支援における病院とケアマネジャーの連携手引きの活用促進などに取り組みました。さらに、在宅看取りの体制を強化しかかりつけ医が不在の場合でも代診が可能となる体制を整えるとともに、市民への周知を図るため市民講座を実施しました。

地域住民への普及・啓発としては、出前トークや生き方カフェ等を実施し、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の普及啓発、未来ノート（エンディングノート）の普及啓発に取り組みました。

評価のための指標では、在宅療養を希望する人の割合については、要支援の人では実績値は増加し目標を達成、一般高齢者では実績値は横ばいとなっています。気軽に相談できる「かかりつけ医」が

いる人の割合については、要支援の人と一般高齢者ともに実績値は増加し、目標も達成しています。今後も、医療・介護を効率的かつ効果的に提供する体制の確保、医療・介護の連携強化とともに、地域住民の意識醸成が必要となっています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
在宅療養を希望する人の割合 【ニーズ調査】（不明・無回答を含む）	要支援：56.6%	要支援：60.5%	要支援：60.0%
	非該当：63.9%	非該当：62.6%	非該当：68.0%
気軽に相談できる「かかりつけ医」がいる人の割合 【ニーズ調査】（不明・無回答を含む）	要支援：82.7%	要支援：87.0%	要支援：86.0%
	非該当：74.4%	非該当：82.5%	非該当：82.0%

3) 安全な暮らしの確保と日頃からの備えの充実

災害時の避難に支援や配慮が必要な人を地域で把握し、助け合えるしくみづくりを進めるため、災害時避難行動要支援者登録制度の推進と活用、自主防災・自衛消防組織の育成、業務継続計画策定の促進等に取り組んできました。また、防災や感染症対策について周知啓発を進めるとともに、有事に必要な物資についての備蓄・調達・輸送体制の整備を行ってきました。防犯・消費者被害防止の取組としては、出前トーク、防犯情報メール・LINEによる情報提供、消費生活相談、交通安全対策としては交通安全シニアカレッジの開催等に取り組みました。

評価のための指標では、（調査結果がまとまり次第、記載予定）。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
道路・河川等の災害対策・防災に配慮されたまちづくりが推進され、地域における防災・危機管理体制が充実されていると思う市民の割合 【市民アンケート調査】	43.6% (※令和3年9月実績)	(令和8年度実施予定)	49.6%

4) 安心できる住まいの環境づくり

買い物支援としては買い物支援等サービス協力事業者の情報提供、公共交通機関の利用支援としてはくりちゃんバス・タクシーの運行等に取り組んできました。この他、公共施設等のバリアフリー化、住宅支援等を通じ、安全で安心な暮らしができる環境づくりを実施しました。

評価のための指標では、(調査結果がまとまり次第、記載予定)。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
ライフラインや公共施設等、暮らしやすい快適な住環境が整ったまちづくりが推進されていると思う市民の割合【市民アンケート調査】	51.6% (※令和3年9月実績)	(令和8年度実施予定)	52.5%

■数値目標の検証

基本方向3の数値目標は、幸福度8点以上と回答した人の割合で、要介護・要支援・一般高齢者のいずれでも前回実績値より増加しています。要介護と要支援の人は、目標を達成しています。幸福度はさまざまな要因に影響される指標ではありますが、地域で安心してくらせる仕組みづくりを通して、今後もこの割合の増加を目指していく必要があります。

数値目標	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
(主観的幸福感) 幸福度8点以上と答えた人の割合【ニーズ調査・在宅介護実態調査】 (不明・無回答を含む)	要介護：33.9%	要介護：36.6%	要介護：35.0%
	要支援：32.6%	要支援：36.0%	要支援：35.0%
	非該当：47.4%	非該当：47.7%	非該当：50.0%

基本方向4 認知症「共生」「予防」の推進と一人ひとりの尊厳保持

1) 認知症「共生」「予防」の推進

認知症の理解促進のため、学校・企業・団体等を対象とした認知症サポーター養成講座等の出前講座の開催、認知症にやさしい店の普及・推進等に取り組んできました。また、認知症の人の見守り体制と居場所づくりのため、認知症地域支援推進員が認知症カフェなどを対象に、ステップアップ講座を実施しました。さらに、認知症の地域支援体制の強化のため、キャラバン・メイト活動の拡充、チームオレンジの構築、企業訪問や啓発ブースの設置・イベント開催等による認知症に関する相談窓口の周知等に取り組みました。

評価のための指標では、認知症に対してどのようなイメージを持っているかについて「今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる」と答えた人の割合は、0%になることを目標にしていますが、要支援の人でも一般高齢者でも前回とほぼ横ばいの結果となっています。これまでの取組を検証しながら、引き続き各種取組を推進していくことが求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
認知症に対してどのようなイメージを持っているかについて 「今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる」と答えた人の割合【ニーズ調査】	2.9%	要支援：2.5% 非該当：2.9%	0%

2) 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護の提供

認知症の容態に応じた医療・介護の提供のため、認知症初期集中支援チーム員会議の実施と事例チラシ等の作成・周知、医療機関受診連絡票の活用、医療介護専門職への認知症に関する研修会の開催、草津栗東認知症連携カンファレンスの開催、認知症ケアパスの更新・活用、認知症カフェや関係機関等との連携強化を通じた認知症の本人・家族への伴走支援、行方不明高齢者位置情報システム利用支援、認知症高齢者等事前登録・個人賠償責任保険、若年性認知症への支援等に取り組んできました。

評価のための指標では、認知症初期集中支援チームに関わった事例の介護負担が軽減した人の割合については、●%となっています（調査結果がまとまり次第、記載予定）。認知症高齢者等事前登録者数については、横ばいとなっています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
認知症初期集中支援チームに関わった事例の介護負担が軽減した人の割合	66.6%	0.0%	66.6%
認知症高齢者等事前登録者数	128 人	117 人	180 人

3) 高齢者虐待防止の取組みの推進

高齢者への虐待を防止するため、広報りっとうや出前講座での周知・啓発、虐待ケース検討会議や定例虐待ケース会議の開催、高齢者虐待対応支援事業、権利擁護事業等に取り組んできました。

評価のための指標では、虐待高齢者発見時の通報義務を知っている人の割合は、要支援の人では横ばい、一般高齢者でわずかに低下しています。この指標だけで取組全体についての評価はできないものの、高齢者虐待防止の意識醸成に必要な指標と考えられます。介護家族や介護人材への意識づくりを行うとともに、専門家・専門機関との連携や、相談支援の充実とともに、ヤングケアラーを含む家族介護者への支援の推進が求められています。また、高齢者虐待防止について継続して周知・啓発を行い、意識醸成を図る必要があります。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
虐待高齢者発見時の通報義務を知っている人の割合【ニーズ調査】	要支援：51.4%	要支援：49.8%	要支援：55.0%
	非該当：50.1%	非該当：46.8%	非該当：51.0%

4) 高齢者権利擁護の推進

高齢者の権利擁護のため、成年後見制度利用促進事業として「なんでも相談会」や、成年後見制度利用支援事業として申立費用の助成等を実施しました。また、成年後見制度利用促進基本計画で中核機関に位置付けられる「成年後見センターもだま」を中心として協議会が開催され、関係機関・4市とで共通課題について協議しました。さらに、地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）の利用支援や周知、高齢者の権利擁護に係る検討会の開催、成年後見市長申立、保護が必要な高齢者に対する措置入所、地域包括支援センターにおける権利擁護相談の実施、高齢者の権利を護るためのネットワーク構築についての検討等に取り組んできました。

評価のための指標では、成年後見制度が利用できることを知っている人の割合について、要支援の人と一般高齢者ともにわずかに減少となっています。判断能力が不十分な高齢者が不利益を受けることがないよう、引き続き成年後見制度の周知や利用支援、関係団体の連携に取り組む必要があります。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
成年後見制度が利用できることを知っている人の割合【ニーズ調査】（不明・無回答を含む）	要支援：38.7%	要支援：37.5%	要支援：45.1%
	非該当：45.1%	非該当：42.3%	非該当：50.0%

■数値目標の検証

基本方向4の数値目標は、基本方向2の数値目標と同じ指標となっています。住みなれた地域で、近隣との支え合いのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合は、●%となっています。（調査結果がまとまり次第、記載予定）

【基本方向4の数値目標】

数値目標	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
住みなれた地域で、近隣との支え合いのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合【市民アンケート調査】※再掲	51.8% (※令和3年9月実績)	(令和8年度実施予定)	54.4%

基本方向5 介護サービス及び介護予防・生活支援サービスの充実

1) 介護人材の確保・育成

介護人材の確保・育成のため、介護支援専門員等研修補助事業の創設、湖南4市と介護・福祉人材確保のための連携、介護支援専門員（ケアマネジャー）処遇改善支援事業の創設、ケアプランデータ連携システムの周知等に取り組みました。

評価のための指標は、介護人材の確保について「確保できている」「おおむね確保できている」と答えた事業所の割合は、大きく減少しています。介護人材の確保は、全国的な課題でもあり、制度的・構造的な課題でもあります。介護人材の確保・育成の支援に努めるとともに、介護現場の生産性向上に資する様々な支援に総合的に取り組むことが求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
介護人材の確保について、「確保できている」「おおむね確保できている」と答えた事業所の割合【事業所調査】（不明・無回答を含む）	48.6%	24.3%	53.0%

2) サービスの充実

介護予防・日常生活支援総合事業として、通所型の介護予防・生活支援サービスや、短期集中型サービスC事業、訪問型の介護予防・生活支援サービスを提供してきました。また、居宅介護サービス、地域密着型サービス、施設サービス等も提供してきました。なお、グループホームの整備事業者が決定し1施設が令和●年●月に開所となる予定です。

生活支援サービスとしては、高齢者日常生活用具の給付、緊急通報システム事業、すこやか住まい助成事業、行方不明高齢者位置情報システム利用助成、配食サービス事業、福祉タクシー運賃助成事業等を実施してきました。

評価のための指標では、地域密着型サービス事業所数は減少し、栗東市で特に不足していると思われる介護保険サービス（地域密着型サービス以外）が特にないと答えたケアマネジャーの割合は0%で横ばい、自立支援・重度化防止等に資する観点からの事例検討会は減少しており、見直しの検討が必要です。

介護予防・日常生活支援総合事業は、市が中心となって地域住民等とともに多様なサービスを実施することで、地域の支え合い体制づくりを推進するものであり、引き続き重要な事業として集中的に取り組むことが求められています。また、中長期的な介護ニーズの見通し等について、地域の関係者と共有し、サービス基盤の整備の在り方を議論することや、既存施設・事業所の今後の在り方も含めた検討が求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
地域密着型サービス事業所数	19 事業所	16 事業所	19 事業所
栗東市で特に不足していると思われる介護保険サービス（地域密着型サービス以外）が特にないと答えたケアマネジャーの割合【ケアマネ調査】	0%	0%	7.1%
自立支援・重度化防止等に資する観点からの事例検討会	2 事業	1 事業	2 事業

3) サービスの質の向上

サービスの質の向上をめざし、介護サービス事業所への指導・助言、ケアマネジャーへの支援、サービス事業提供事業所への研修、介護相談員派遣事業、市ホームページ・広報による情報提供等に取り組んできました。

評価のための指標では、介護サービス事業者への集団指導回数は予定通り実施でき、自立支援・重度化防止等に資する観点からの事例検討会（※再掲）については減少しており、見直しの検討が必要です。

サービスの質の向上を目指し、働きやすい職場づくりに向けた支援、介護現場の生産性向上に資する様々な支援・施策への総合的な取組などが求められています。

【評価のための指標】

評価・活動指標名	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
介護サービス事業者への集団指導回数	1 回	1 回	1 回
自立支援・重度化防止等に資する観点からの事例検討会 ※再掲	2 事業	1 事業	2 事業

■数値目標の検証

基本方向５の数値目標は、基本方向３と同じ目標となっており、幸福度８点以上と回答した人の割合で、要介護・要支援・一般高齢者のいずれでも前回実績値より増加しています。要介護と要支援の人は、目標を達成しています。幸福感はさまざまな要因に影響される指標ではありますが、介護サービス及び介護予防・生活支援サービスの充実を通して、今後もこの割合の増加を目指していく必要があります。

【基本方向５の数値目標】※再掲

数値目標	R 4 実績値	R 7 実績値	R 8 目標値
(主観的幸福感) 幸福度８点以上と答えた人の割合【ニーズ調査・在宅介護実態調査】 (不明・無回答を含む)	要介護：33.9%	要介護：36.6%	要介護：35.0%
	要支援：32.6%	要支援：36.0%	要支援：35.0%
	非該当：47.4%	非該当：47.7%	非該当：50.0%